

# 第1回定例 議会報告



高村功議員

# 憲法守りあらたな戦前にさせない

日本共産党の志位和夫委員長は5月3日の「2023憲法大集会」であいさつ。岸田政権が進める大軍拡について、「憲法9条も、『専守防衛』もかなぐり捨て、日本を他国の領土を攻撃する『戦争国家』に変える — これが正体だ」と告発。「戦争の準備ではなく、平和の準備を — そのために力をあわせましょう」と訴えました。



憲法施行から76年を迎えた5月3日、憲法を守り生かそうと全国で集会やデモが行われました。東京・有明防災公園で開かれた集会には、新型コロナウイルス流行以降で最大規模となる2万5000人(主催者発表)が参加。日本共産党の志位和夫委員長をはじめ4野党の代表と一緒に、日本を「あらたな戦前にさせない」とアピールしました。集会後、パレードしました。

共産党の志位氏、立憲民主党の西村智奈美代表代行、れいわ新選組の榑渕万里共同代表、社民党の福島瑞穂党首があいさつ。参加者と一緒に壇上から「敵基地攻撃能力いらない」などと書かれたプラカードを掲げました。

同集会実行委員会の高田健さん(総がかり行動実行委員会共同代表)があいさつし、岸田政権は敵基地攻撃能力の保有を明記した安保3文書を閣議決定するなど戦争の準備をしているが、「やるべきは平和の準備です」と強調。岸田首相が来年9月までの任期中に改憲を目指すこと公言したことに触れ、「全国でたたかい、阻止しよう」と呼びかけました。

志位氏は、岸田政権が進める大軍拡について、「憲法9条も、『専守防衛』もかなぐり捨て、日本を他国の領土を攻撃する『戦争国家』に変える — これが正体だ」と告発。5年間で43兆円の軍事費を捻出するための「軍拡財源法案」のでたらめな中身を批判し、「平和も暮らしても壊す岸田政権の大軍拡ストップ — この一点で立場の違いを超えて大団結して、この憲法記念日を出発点にして、国民的大運動を起そう」と訴えました。

志位氏が、「戦争の準備ではなく、平和の準備を — そのために力をあわせましょう」と訴えると会場から大きな拍手と歓声が湧き起りました。市民3氏によるメインスピーチで、室蘭工業大学教授の清末愛紗さんは、物価高騰の中で賃金の大幅引き上げは実現しない一方、軍事費は約43兆円に増額されようとしていると語り、「力あるものが、力のないものを踏みしめようとしていきます」と告発。「あらたな戦前」をためるために、つながりながら、よりよい社会を求めていこうと話しました。市民連合から、佐々木寛さん(市民連合@新潟共同代表)が連帯あいさつしました。

## 市議会 学校給食の無償化を求める 署名運動にご協力ください

物価高騰のなかで、子育て世帯の家計を応援する学校給食費の無償化を行う自治体が広がっています。近隣でも大子町・城里町は以前から、今年4月から日立市・北茨城市が無償化に踏み切りました。水戸市は中学校が無償となりました。

国の制度として実施すべきです。また、子どもが多いほど子育て世帯の負担が多額になることも解消されます。

憲法(第26条)は「義務教育は無償」と定めています。教育の一環である学校給食の無償化も、本来は

市の「給食費は保護者負担」との立場(裏面、高村功議員の一般質問参照)ですが、「地方自治体が全額補助することを否定しない」という内容の国会答弁が、各地で無償化を広げる力となり、全国に広がっ

「会」が作成した「給食費無償化を求める」チラシ

Twitter はじめました

岸田政権が発表した「子ども・子育て政策」の試案に、学校給食費の無償化が検討項目に入ったことは前進ですが、その実現は地域での運動の広がりにかかっています。

を優先していると、危機感を感じて来ましたが、「憲法を守り生かせ」と迫りたい」と語りました。(5月4日付「しんぶん赤旗」)

茨城でも、水戸市内で3日、憲法フェスティバルが開かれ、参加者が憲法9条を生かした平和外交と岸田政権の軍拡ストップをアピールしました。常陸大宮からも参加しました。憲法フェスティバル実行委員会代表・田村武夫茨城大名誉教授が主催しました。

一部大手メディアから、事実と異なる「共産党ハッシング」がくりかえされています。「結社の自由」への乱暴な攻撃です。

### 民主的な党運営に 力をつくしています

全国の職場、地域、学園で活動する支部から中央委員会まで、毎週会議をひらいて、意見をだしい徹底的に話し合っ

### 日本共産党

「副委員長」などを選出します。なかから「委員長」「書記局長」直接選挙で選ばれた党首が、人事も方針も一人で決められる政党とは違って、集団による民主的な党運営を保障するためです。

### 選挙で選ぶのは 党首一人ではなく 執行部全体

日本共産党は、党のトップだけでなく、執行部全体を選挙で選びます。党大会で、中央委員会メンバーを選び、その

を理由に排除されることはありません。

常陸大宮市でも「学校給食費の無償化を求める常陸大宮の会」(代表 小室貞夫氏)が議会請願署名運動をはじめました。学校給食無償化実現のため、あなたも署名運動にご協力ください。



### 第2回定例議会は 6月6日(火)に開会します

請願・陳情は、5月30日(火)までに提出してください。

日本共産党  
ホームページ  
QRコード  
スマホ対応

### しんぶん赤旗

日刊 ● 月3,497円  
日曜版 ● 月 930円

### 新ひたちおおみや

「義務教育は無償」と憲法は定めています

教育の一環である給食の無償化は当然

# 学校給食の無償化を再度求める

**高村議員** 大子・城里町は無償。北茨城・日立市も4月から無償化に踏み切りました。  
**教育部長** 食材費は保護者負担としています。一部公費負担しています。



**高村功議員**  
3月7日に質問

## 一般質問

市議会のホームページで一般質問の録画が見られます

日本共産党の高村功議員は一般質問で、学校給食費の無償化について質問し、無償化への考え方や必要な概算額などを質しました。

**高村議員** 近隣市町村でも給食費の無償化が進んでいます。大子町、城里町は無償、常陸太田市では半額、北茨城市、日立市でも無償化に踏み切り、水戸市でも中学校の無償化を決めました。当市の考え方を伺います。

**教育部長** 学校給食費の経費については、学校給食法及び施行令に規定されており、設備費、修繕費、人件費は設置者の負担としていま

計予算、上水道事業会計予算の5議案に反対し、討論を行いました。

条例の制定・改正案では、「常陸大宮市出産祝い金支給条例の一部を改正する条例」と「指定管理者の指定について」(山方自然生態観察施設淡水魚館)の2件について反対し、「反対討論を行いました」。

陳情では「市道30312号線に架かる『蛙田橋』の復旧工事について」は継続審査となりました。



す。このようなことから、食材費は保護者負担としています。なお、食材費は一部を公費負担し、保護者の負担軽減を図っているところ

**高村議員** ちなみに、小中学校を全額無償にした場合、同じく半額にした場合、中学校を全額無償にした場合の概算について伺います。

**教育部長** 令和4年度当初予算額で申し上げますと、完全無償化を実施した場合、幼稚園・小中学校の園児及び児童生徒に係る総額は9957万5000円、半額にした場合は4978万7500円、中学校のみの場合は3738万8000円です。

**高村議員** 例えば市外から移住しようとした人が、給食費を基準とした場合、条件の整っている近隣市町村に流れて行ってしまおうと思

**教育部長** 調査していませんが、当市では給食費を無償化せずに、定住につながる施策を市全体で取り組んでいるところです。

### <新年度予算>

■一般会計	…245億3000万円
■国民健康保険ほか5特別会計、上水道・下水道事業会の計	…159億1220万円
合計	404億4220万円

※18歳までの医療費の所得制限が撤廃  
今年10月から子どもの医療福祉費の所得制限が撤廃されます。これは、日本共産党市議団が長年にわたって繰り返して要求してきたものです。第1回定例会で決まりました。

## 議会傍聴記



市政くらし対策部長  
**小室貞夫**

3月に行われました第1回市議会定例会での高村功議員の一般質問を傍聴しての、私なりの感想を述べたいと思います。

「給食費の無償化」について問われ、「自分が食べるので当然負担すべき」との答弁には唖然としました。憲法26条(義務教育は無償とする)を知らないのかと疑ってしまいます。給食は、単なる栄養補給ではなく教育の一環であり無償とするのが当然です。

次に、過疎化が進む周辺地域の活性化についての質問に、市長は最後に「議員ならこうすると対策を出してくれ」と、難しい問題ではあります。難しい問題ではあります。それをやるのがあなたです。

終わりに今回の議会からタブレットが採用されていましたが、紙の議案書もあった方が議論が活発になるのかなと思いました。

望ということですが、現在のところそのような考えはありませんが、近隣自治体の状況については、今後も注視していきます。

**高村議員** 基本的に保護者の負担があってもよい、との答弁がありましたが、それは違うと思います。また、無償化にせずに、定住につながる施策を市全体で取り組んでいくとの答弁でしたが、これでは整合性が取れないと思います。

## 合併から20年 格差解消が課題

**高村議員** 私は合併以降、大宮地域と比較して、周辺地域は深刻な高齢化と過疎化が進行し、格差が大きくなっていくことを指摘してきました。どこに行っても「若者が街に出て行ってしまおう」、「将来この地域はどうなってしまうのだろう」という歎きを聞きました。市長はこの現実をどう見るのか伺います。

**市長** 全体として本市の人口は減少傾向にあり、少子高齢化も進行しています。また一方で、県内2位の広大なエリアを持つ本市におきましては、さまざまな特徴があります。すべての地域において同様の施策を講じるのではなく、実情に合った施策を展開することが肝要です。そのため各地域に支所と公民館を複合化した、拠点となる地域センターを設置したところです。

**高村議員** 先ほど来、おしゃれで利便性の高い空間にしていくことで、若年層の定住意識を高めていくとのことでしたが、市内からの移動であれば、確実に進むのが周辺地域の空洞化です。問題は、活力を生み出すべき市民が周辺地域のからどんどん減少していることです。考えを伺います。

**市長** 駅周辺を中心とする高台に人が集まり、周辺地域の人口が減少してしまうことですが、日常生活の利便性がより高い地域に移り住むという若い世帯の選択を考えた時、市外ではなく、駅周辺を中心とした高台を選んでいただけるならば、人口流出を防ぐダムとして、十分な機能を発揮したと言えるのではないかと考えています。

**高村議員** 市全体の均衡ある発展について伺います。  
**市長** それぞれの地域特性に合った施策を講じる必要があり、それらが相乗的に作用することで、市全体の魅力を高めていくことにつながると考えます。

### その他の一般質問項目

■市公共施設等総合管理計画(計画の概要、個別施設の進め方、淡水魚館休館の経緯、今後の対応)

■マイナンバーカード(カード導入の考え方、当市の普及率、個人情報漏洩の懸念、今後の対応)

■若林通学路の安全確保(ガードレールの設置、拡幅工事の進捗状況など)

\*高村議員の一般質問と答弁概要等をまとめた冊子(A4サイズ10頁)あります。必要な方、連絡ください。